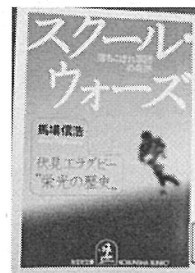
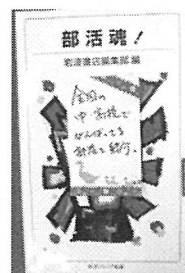




内本の図書館に行こう ～その2～



前回、「図書館だより」に図書館に行こうという内容のことを書きましたが、今回はその2として、ある生徒さんとの会話でのエピソードを紹介しながら第2段を書いてみたいと思います。ある日の休み時間での生徒さんとの会話です。私「〇〇君、高校生活が始まってしばらく経つけど、もうクラブには入部したんやろな。」その生徒「はい、友達に誘われて〇〇部に入りました。」私「それなら毎日、放課後はクラブで頑張っているんやな。充実した高校生活やな。」その生徒「先生、それがですね……。友達は中学校の時からそのクラブに入っていたから、毎日バリバリやっているんですけど、僕はそのスポーツは全然やったこともないし、ルールも全く分からないんで、ちょっと憂鬱なんです。」私「ふーん、そうなん。ちょっとこっちについて来てみ。」その生徒「先生、ここ図書館ですね。」私「そうや、ここに高校の部活についての本や、そのスポーツのルールブックがあるやろ。まずは、これらの本をじっくり読んで、そしてルールも覚えるんや。」その生徒「先生、文字で覚えた知識なんか役に立つんですか。」私「もちろんそれだけではダメやけど、君 スマホを持っているやろ。ブログを見たり、SNS をしたり、ゲームだけをするのがスマホとちがうで。スマホはすごい機械なんや。まずは、文字からそのスポーツの知識をじっくり頭にたたき込んで、その後、スマホを使って〇〇tube なんかに見て目からも耳からも勉強してみたらどうや。頑張って。」



また、別の生徒さんとの会話です。その生徒「先生、この前、クラブ終わってからお腹すいたんで新しく開店したというラーメン屋に行ってみたんです。」私「それでどうやったんや。おいしかったか。」その生徒「それがですね……。あんまり美味しくなかったんです。」私「ちょっとこっちについてきてみ。」その生徒「先生、ここ図書館ですね。」私「ここにラーメンの本があるやろ。図書館にはこんな本もあるんやで。人の味覚は人それぞれやけど参考にはなと思うで。読んでみ。」



さて、次に前回と同様に海外旅行についての話です。ある休み時間にある生徒さんとの会話です。その生徒「先生。先生は、よく海外についての話をされるけど英語が話せるんですか?」私「あんな、先生はもちろん英語の教員でもないし、たとえ英語が話せたとしても、英語が通じない国なんて世界にはいくらでもあるんやで。」その生徒「先生。外国語を勉強するいい方法がありますか?」私「ちょっとこっちについてきてみ。」その生徒「先生、ここ図書館ですね。」私「ここに英語関係の本、また別の外国語の本、外国語会話の本などがあるやろ。最近紙の本だけでなく



CD や DVD まで付いている本まであるんやで。文字だけの知識だけでなく目も耳も口も使って勉強するんや。」

今回の「図書館に行こう」第2回目は、生徒さんとの何気ない会話を中心にして書いてみました。最後に私が高校の時から実践している勉強方法を紹介したい思います。他の先生方からは邪道と言われるかもしれませんが、参考にしてくれたらと思います。まずどんな事、どんな教科もそうですが、新しいことを勉強しようと思ったらその資料、テキストなどを用意すると思います。そして、その時にはあまり厚い物ではなくて手頃（薄め）な資料（本）を探します。外国語会話の本でしたら必ず CD が付いている本を選びます。私はその音声スマホに録音し、家にいる時、電車に乗っている時（私は通勤の車の中で）、暇な時と繰り返し繰り返し聞いて勉強します。また、この勉強方法は CD が付いてこない他の教科でも応用できます。それは、自分でその本を読んでスマホに録音するんです。ただこれは耳からだけの知識ですので、書くことも忘れずに。

最後に、「便利な所でしょ。ぜひ図書館に足を運んでください。」



A さんのおすすめ本

「アヒルと鴨のコインロッカー」 伊坂幸太郎 著

変わったタイトルの本だが、内容は少しミステリーなところもある話だ。二人の主人公が、現在と2年前という時間が異なるが共通の人物を介しての物語で、村上春樹っぽい要素もある、読んでいくとだんだん引き込まれていく話である。

2年前の話：ペットショップで働いている琴美。日本語がまだたどたどしいブータンからの留学生のドルジ。琴美が以前つきあっていた容姿端麗な河崎。表情が全く変わらないペットショップの店長の麗子さん。そして、ペット殺しの3人組が、秘密を知った琴美たちを襲ってくるという展開に…。
現在の話：大学生活をスタートするためアパートに引っ越してきたばかりの僕。「一緒に本屋を襲わないか」と持ちかけてきた隣の河崎。一冊の広辞苑を奪うために本屋を襲う?! 僕は、モデルガンを持って本屋の裏口に立つはめに…。なぜ、河崎は本屋を襲ったのか? 最後は、予想しない展開になってしまった。

第25回吉川英治文学新人賞受賞作です。

(司書教諭 足立孝二)

